

⑥ 南紀白浜＝羽田路線

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空港周辺の後背地人口が少なく、少子高齢化・人口減少が進んでいるため、熊野地域に関連する観光資源を活用し、交流人口の増加させる必要がある。 ・ 「熊野古道」に関連する世界遺産は世界的関心が高く、自然・文化・歴史等に恵まれたポテンシャルの高い地域であるが、首都圏の利用者層は、白浜空港利用による観光スタイルは認知度が低く、積極的な観光需要の創出が行われていない。
方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の観光資源を活かした航空需要の掘り起こしを行い、熊野地域の魅力を感じているが、白浜空港を使用していない首都圏や海外からの利用者層を、航空利用に結びつけるイメージングを行う。 ・ 海外からの利用者層獲得においては、欧米人は羽田・成田利用が多い背景から、新たな利用者層への展開として、欧米からの観光客誘致として、外国人による外国人の誘致を図る。
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 首都圏からの送客増加と航空会社の協力による機材大型化や割引運賃販売期間の拡大を実現し、旅客需要に結びついている。 ・ 本プログラムの実施により一定の路線認知度が向上したものの、まだまだ低い(33.3%)状況である。 ・ 外国人による外国人の誘致として、欧米社交クラブ会員対象のモニターツアー参加者から、母国へのSNS情報発信による拡散効果をねらったが、取組期間が短期間となったことから、限定的な効果となっている。 ・ 首都圏からの送客増加と航空会社の協力により、課題であった運賃の引き下げ及び割引運賃販売期間の拡大を実現することができた。
総括	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多額のコストをかけたPRができたことは本プログラムの助成があったためであり、本プログラムの支援終了後の先行きが不安な部分がある。 ・ プラスの外部要因により2年目までは旅客増となり、その影響がなくなった3年目も同等の旅客数となったことは評価できる。 ・ 本プログラム開始以前では観光分野における地域内の連携がほとんどなされていなかったが、本プログラムにより地域全体で課題に取り組む環境づくり・連携体制を構築できた。 ・ 使用機材の大型化については、期間限定で実施に至り、本プログラムの効果による搭乗者数の増加となったため、将来的な大型化に向け航空会社と協議がしやすい環境が生まれた。